

新聞が消えた後に

松浦 俊博

三月の書こう会でIさんが新聞発行部数の減少について書かれた。現状では、高齢者は新聞やテレビを、若者はネットを利用しており、メディア選択について年齢層による分断が生じている。近い将来には、新聞やテレビが廃れてネットが残ることになるだろう。

新聞の最大の弱点は、ニュースの時間遅れだ。私の家では夜のうちにネットでニュースを見て知り、翌朝の新聞記事で補充している。ネットでは動画に接するので、新聞より臨場感のある情報が得られる。

新聞の強みは何か。まず期待するのは記事の真実度の高さである。記事を作る記者層の厚み、非公開情報の積み上げがネットに優り、フェイクは少ないと推定する。また、三〇ページ前後の紙面を使っていろいろなことが書かれているので、「読みたい」事だけ読むのではなく「なんとなく目に入る」事も読んでしまう。これが時々すごく興味深い記事だと感じて得をした気分になる。浅く広い内容だからフェイクの影響を受けても容易に矯正できる。

一方、ネットではどうしても特定のテーマだけに視点が集中して、ズルズルと深みに引き込まれる。その過程でフェイクまみれの誤情報にさらされて、とんでもない勘違いをしてしまう。

では、どんなメディアがいいか。BBCニュースジャパンというネット情報があり、こういうものがあれば新聞がなくてもいいと思う。まず世界中の出来事を偏らずに、また広いジャンルを扱う。記事は一項目につきタイトルと要約がそれぞれ一〜二行と写真が付され、その項目を開くと詳細記事を見ることができ。勿論動画も含まれる。

更にメディアの運用について変更すべきことがある。メディアはニュースを作成する会社と、プラットフォームと呼ばれる情報を配信する会社に分業されている。プラットフォームが金儲けに執着すると、信憑性の高い貴重なニュースが軽んじられて、くだらないフェイクニュースが拡散する。現状のシステムでは、時事問題の裏側に踏み込んだ調査報道より芸能人のゴシップの方が、炎上し拡散して金儲けに寄与するのは明らかだろう。拡散する人がニュース作成者に費用を支払うシステムにすれば炎上は抑制されるのではないか。真実を知ることの大切さは再認識されるべきで、そのためにお金を払うのは当然だと思う。